

学校教育現場の多国籍化とAI通訳機の導入について

ソースネクスト株式会社取締役専務執行役員 藤本 浩佐



1 日本の学校教育を取り巻く環境

超高齢化が進む日本では、労働力不足を補うため、外国人労働者の受入れは増加の一途をたどり2016年に100万人を突破、2020年には172万人を超え、過去最高を更新しました。学校教育の現場では今、来日する外国人労働者の子供たちの受入れが課題となっています。状況を難しくしているのは児童生徒の多国籍化です。その解決策の一つとして、AI通訳機「ポケットーク」の導入が教育現場でも進んでいます。

2 AI通訳機「ポケットーク」とは



AI通訳機「ポケットーク S」

弊社の「ポケットーク」は、互いの言葉を話せない人同士が自国語のままで対話できるAI通訳機です。61言語を音声・テキストに翻訳し、21言語をテキストのみに翻訳できます。多言語に対応することから、新型コロナウイルス感染症の拡大以前には、インバウンド・アウトバウンド、外国人労働者とのコ

ミュニケーション・ツールとしての需要が増え続け、教育現場に限らず鉄道などの公共機関や小売店など多種多様な企業で、加速度的に導入が進みました。これにより、「ポケットーク」は2017年12月の発売以来、2021年9月14日時点で累計出荷台数は90万台を突破、一気に浸透していきました。

3 教育現場の多国籍化

厚生労働省発表「『外国人雇用状況』の届出状況まとめ」によると、2020年10月時点で、日本で働く外国人労働者の国籍はベトナム25.7%、中国24.3%と、この2か国で半数。次いで、フィリピン10.7%、ブラジル7.6%、ネパール5.8%と、英語圏以外が多数を占めています。こういった外国人労働者は、家族をともなって移住してくるケースも多く、先に述べた、児童生徒の多国籍化が進んでいるのです。

その例として、「愛知県知立市の市立知立東小学校で、新年度の新入生49人中41人が外国籍になる見込みになった。」というニュースが報じられました（2019年2月18日、朝日新聞デジタルより）。

「ポケットーク」は、日本各地の教育現場で導入され、私たちが把握しているだけでも、小・中学校1,600校以上を数えます（2020年7月時点、弊社調べ）。コロナ禍以前は外国人労働者が多い東海地方のいわゆる中京工業地帯の教育現場で数百台規模の導入例もありました。「ポケットーク」の普及は、コロナ禍

で一時的に足踏みしていた時期もありましたが、依然として行政窓口や病院、教育機関では高い需要を保ち続けています。教育現場への導入は市区町村で一斉に導入されるケースもあり、例えば2020年に東京都江東区的全幼稚園、同板橋区的全保育園、大阪市立的全幼稚園と市立保育所を含む児童福祉施設、2021年には東京都八王子市的全認可保育園、幼稚園、認定こども園でも採用いただいています。

4 「ポケットーク」の教育現場での利用用途

教育現場での「ポケットーク」の利用用途は、

- (1)教員と外国人児童生徒とのコミュニケーション
 - (2)教員と外国人児童生徒の保護者とのコミュニケーション
 - (3)教員とALT（外国語指導助手）とのコミュニケーション
- が挙げられます。

(1)は、子供の間で起こるけんかななどの原因の把握、給食においてアレルギーや好き嫌いの確認などをしたいという声が現場から聞かれます。

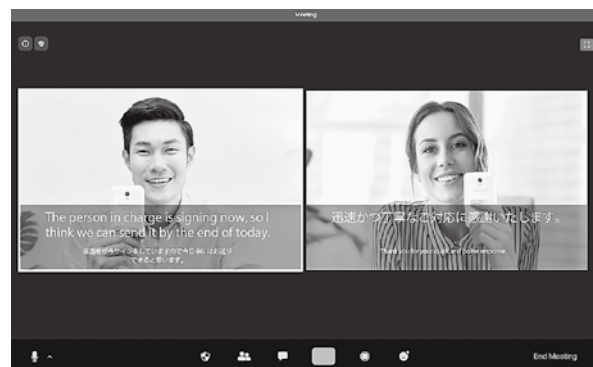
(2)は、幼稚園・保育園の送迎、小・中学校では給食や掃除など、外国にはなく理解が難しい日本独自の文化や制度の説明を行う際、両者とも母語ではない英語を用いての会話より、「ポケットーク」を用いて互いの母語で会話ができる意義は大きいと考えます。

5 今後の展望

アフターコロナを見据え外国人労働者の需要が再燃し、教育現場での「ポケットーク」のニーズはますます高まっていくと見込んでいます。

これまで対面で使われてきた「ポケットーク」は、コロナ禍の中で、日本において急速に普

及したりリモート会議や商談、ウェビナー、動画配信等のオンライン上の「言葉の壁」をなくすべく進化し、2021年9月に無償アップデートにより新機能「ポケットーク字幕」の提供を開始しました。本機能は、ポケットークで翻訳した結果を、パソコンのWebカメラに字幕のように合成できるというものです。



「ポケットーク字幕」

教育現場においてもオンライン授業やハイブリッド授業が導入され、どのように授業を行っていくのか、頭を抱えられた先生方も多くいらしたと思います。本機能を使うことで、先生が日本語で授業を行い、「ポケットーク」で翻訳した結果を字幕表示することでその内容を伝えることができるようになります。

今後も日本の少子高齢化は続き、これまで以上にAI通訳機が教育現場において重要なコミュニケーション・ツールになっていくと考えます。「ポケットーク」は発売以来、ソフトウェアの更新により機能の追加や性能の向上を図り、進化し続けています。弊社は今後も、「言葉の壁をなくす」というミッションの実現に向けて、この取組を続けていきます。弊社の「ポケットーク」が、教育現場に存在する言葉の壁をなくすための一助となることを願ってやみません。